

新洲本市総合戦略

住民ワークショップ

～ すもと・もっとおもろナーレ 2019 ～



1. 開催目的

現在の「洲本市総合戦略」が今年度をもって最終年度を迎えるにあたり、令和2年度より実施される「新洲本市総合戦略」の策定に向け、住民のニーズの把握をするためにワークショップを開催した。

ワークショップでは住民の視点から、洲本市の魅力や課題について考察を行い、より住みやすい洲本市を実現するため、議論を行った。

【期待される効果】

今回のワークショップでは住民目線の開催であり、柔軟な発想で洲本市の将来像について考察することを期待した。以前は洲本市若手職員向けワークショップも開催しており、職員目線と住民目線の対比を試みることも、今回のワークショップ開催の目的である。

2. 開催概要

【開催日時】

令和元年11月23日(土) 午後1時～4時(3時間)

【開催場所】

洲本市本庁舎 4階 会議室

【参加者】

洲本市住民、出身者、在勤者 計20名

【グループ分け】

まち:5名×1班 ひと:5名×2班 しごと:5名×1班 計4班

【進 行】

進 行	所要時間
グループでの自己紹介 (アイスブレイク)	5分
意見・アイデア出し	30分
意見・アイデアのグルーピング	15分
休憩	15分
グルーピングしたものの企画・事業(施策)立案	20分
キャッチコピーの検討	10分
グループ発表	60分

3. 各班による発表

1班(まち) 試住からはじまる便利な田舎暮らし

○発表

- ・ 目的は移住定住、(別荘のようなものでも良い)。
- ・ 試住できる宿を目指す。便利なものである必要はない。長期のものでも良い。
- ・ 試住は、定住を前提としたものである。
- ・ 試住をまちの拠点とする。
- ・ 将来的には、町全体が家族となるようにしたい。

○質疑応答・意見

質問:発表の中で、本町に居候しているとあったが、地元住民とのふれあいや気づきはあったか。

回答:論文の調査で居候しているが、空き家を貸さない理由は、金銭的に困っていないというものもあるが、誰か分からない人に貸したくない気持ちもある。しかし、親しくなると貸してくれる場合もある。そのため、試住して信頼関係をつくる事が、空き家活用につながるとわかった。

意見:試住に行けない人は、どうするか。試住したつもりになるのも良い。反対に、こういう人に来てほしいというような発信もあったら良いと思う。誰でも良いというものでもない。

2班(ひと) 迷いも人生～ある程度疲れた大人たち～

○発表

- ・ なぜ洲本市に人が戻るのか話し合った。
- ・ (進学等で) 出ていく事が悪いのではなく、外を知って洲本の良さを認識するのが大事である。
- ・ 洲本市から出ていく理由は、遊ぶ場所がない。大学がないからである。
- ・ 洲本市に戻る理由は、都会ならではの「しんどさ」があるのではないか。
- ・ 都会に出てからこそ、洲本市の自然、人間関係の温かさが分かる。
- ・ 何気ないおおらかな日常を大切にしたい。
- ・ 関係人口の大切さを発信したい。
- ・ 関係人口の交通手段の補助も大切である。
- ・ 働く中で、人のあたたかみに触れることが大切である。
- ・ ある程度疲れた大人が返ってくる洲本市にしたい。

○質疑応答・意見

質問: 福井県のゆるい移住のように、目的をもたない移住、つまり期待をしすぎない移住が結果的に移住者を増やしている。地元の中にも居酒屋のようにコミュニティーの拠点がある。しかし、新しい人はコミュニティーに入りづらい。新しい人が入るコミュニティーについて、何か考えはあるか。

回答: コワーキングスペースが洲本にあるが、そこで滞在し、居酒屋にも行ってもらうことでコミュニティーが広がる事を期待したい。

3班（ひと）

人と人がつながる淡路ネオタウン

○発表

- ・「ひと」という部分が核になる。
- ・神戸市、明石市での就労を前提とした島暮らし。
- ・企業の誘致は現状に合わない。
- ・ニュータウンでは、区画の中におさまるイメージであり、ネオタウンにした。
- ・通勤費を補助したらよい（明石海峡大橋が高い）。
- ・空き家のリフォームや補助をする。
- ・滞在型のモデルライフを行う。
- ・公園が少なく、遊具を増やした方がよい。
- ・コミュニティーセンターを設置し、人と人がつながるようにする。

○質疑応答・意見

質問:具体的に「この地区を活用」みたいなものはあるか。

回答:これは、洲本市の問題ではなく、淡路島3市の問題である。どこかの地区特定でない。

質問:通勤の補助は、学生なのか。南あわじ市では補助がある。

回答(洲本市職員):洲本市は、市内向けの補助がある。市外(島外)流出をさける目的がある。

回答:企業は淡路島に、リスクを起こして来るか疑問である。明石市などで働いた方が現実的である。

これは、市の決定と議論内容と異なる部分でもある。

4班（しごと）

島での働きかたを“チカク”する

○発表

- ・どうしたら島に帰りたくなるか考えた。
- ・「近く」と「知覚」を掛けたものである。
- ・就職について、ハローワークばかりではなく、Youtubeを活用するなどする。
- ・情報発信は働き方だけでなく、観光についても考えられる。
- ・ガイドブックにない魅力を伝える。
- ・働き方をおもしろくし、淡路島の魅力をつたえるため、情報発信を行う。

○質疑応答・意見

質問:動画は、Youtubeなのか。何種類も発信するのか。

回答:働き方に限ると、いわゆる意識高い系しか見ない。色々な層の動画作成をしたい。

質問:淡路島はウェブメディアみたいなものはなく、アイデアは面白いと思った。足りていない情報や、ターゲットはだれか知りたい。

回答:一番のターゲットは、就職をどうしようか考えている人である。また、30代~40代で淡路島に帰ろうか考えている人もターゲットになり得る。普段の何気ない生活の、受け取り側にとって魅力となる場合がある。

質問:情報発信はだれがやるのか。

回答:市民のUターン、Iターンの人が望ましい。あるいは、学生も考えられる。

意見:就活は、リクナビ等大手に限られる。淡路だけでなく地方就職に限定したサイトがあればよい。

意見:情報発信は、子ども達にやってもらってもよい。子どもも学べるし情報発信もできる。

1班 試住からはじまる便利な田舎暮らし（まち）

アイデア

- 自分の好きなものから作り出す※なぜここなのかは置いておいても大丈夫
- 埋もれているもの
- 便利な田舎に試住しよう！
- 試住から始まる島生活
- プチ田舎くらし試せます！
- 船だんじり
- 夜の新興地のサイズ感
- 夏（島まつり）
- 弁天さん
- シラス、さわら、ハモ
- 古くからの駄菓子屋（駄菓子屋さん なつかしさ）
- 食が豊富
- 水産加工・漁業
- 銀行からの投資 ビジネスマッチング
- 都市銀行
- くにうみマラソン
- 海外から移住者
- 海、寺、仏像、港
- リゾートホテル、温泉
- おみやげ屋さん
- 個人の蔵、古民家（400年前とか活用の可能性）
- 本町商店街
- 松の内
- もっとインタラクティブな美術館または博物館がほしい
- NHK、大河ドラマゆかりの人、モノを探す
- 偉人、著名人が多い（ドラクエ、大地真央など）
- 後継者がいない
- シャッターが多いのなんとかしたい
- bicycles
- 英語のマップとメニュー
- 古民家、民泊
- アートトリエンナーレ芸術祭
- 淡路市からどうつれてくる？
- 洲本温泉にどうやって泊まってもらう？

目的

• 移住、定住を増やす

• 観光を魅力的に

• 別荘的に持っても
もらうでもよいのでは？

• いくつかのお店が
まとめてできると集客・注目される

手段

• 先輩・移住者+地元の人、新人移住者
→この繋がりがネットワークに

• 新しい事業を始めるのに必要なサポート体制があることをわかりやすく提示
実際サポート（許可・申請まわり）
↑
普通は聞かないと出してくれないサポートも聞かなくても出してくれる。世話やいてほしいー！

試住できる宿

自分でまわりに買い
に行ってキッチンで
つくる

長期ステイできる宿
（定住）（移住）（観光）

コンテンツ

• 都市計画として人を入れたいところマッピングする

地域おこし協力隊も
試住→定住を目指していくコトを条件に
してみる

• 世話焼きおばちゃん
の力が出せる場

Parental leave
ECO/zero waste
スマートシティ

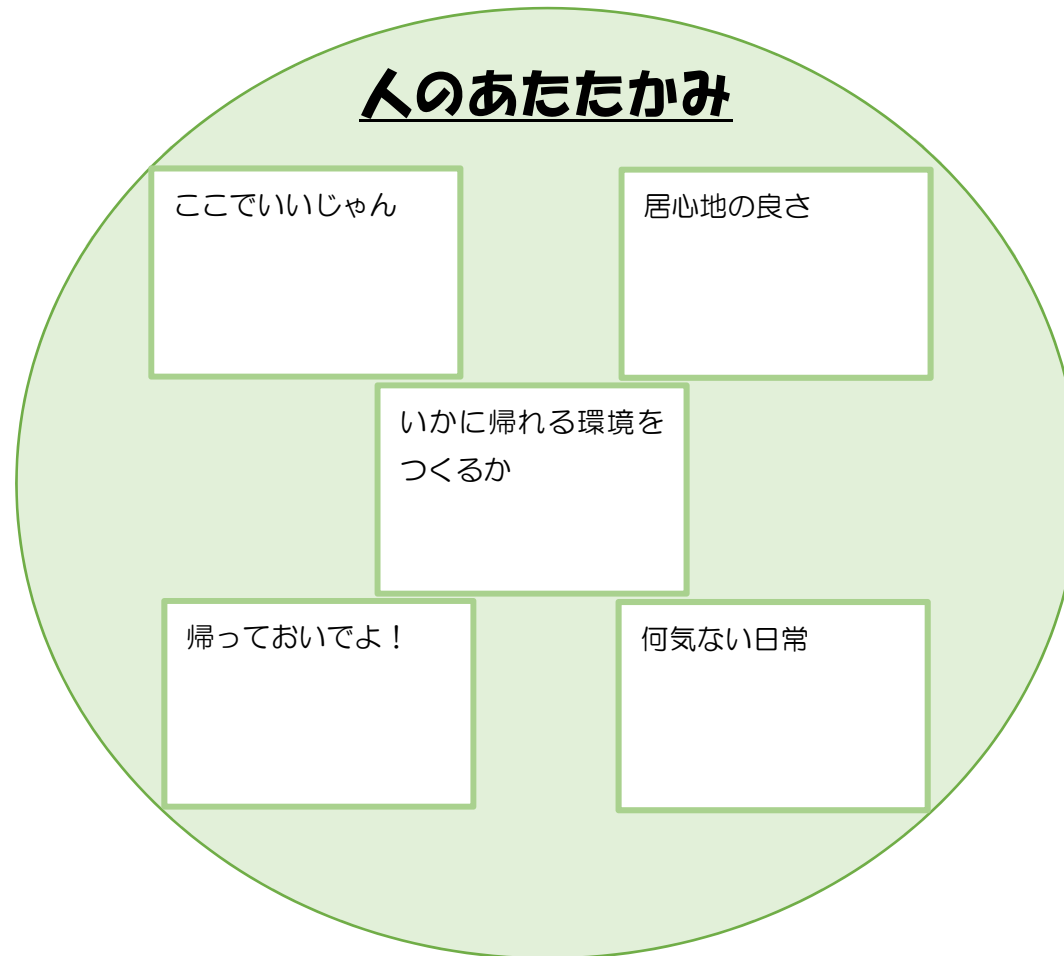
• family
• friendly

増やすためにどうする？
• わかりやすい、わかりやすい空き家情報

試住からはじまる 便利な田舎町

2班 迷いも人生～ある程度疲れた大人たち～（ひと）

出ていく理由	帰らない理由
遊ぶところ→若者が遊ぶところがない	帰るのは負け組
大学がない！→進学ででていく	雇用
人付き合いのわずらわしさ	
おせっかい 厚かましさ	



帰ってくる理由

都会はしんどい	都心部とのギャップ	出ることによって本場の良さがわかる+スキルアップ
ちょうどいい良さ 都会⇄田舎	海と山 自然	人があたたかい (また帰って来たい！)
	自然の美しさ時間の 穏やかさ→都会にない	補助金等の積極的な 斡旋
	外へでると人付き合いも 気にならなくなる むしろ愛情	モビリティ（自転車で移動）

知ってたら帰ったかも	域学連携 島外から洲本へ	SNS 発信
	学割	関係人口メンバーへの特典システム、レンタカー割引とか

フレキシブルな働きかた	企業の誘致	企業の誘致
企業のショートステイ事業所	コアスペースのテレワークシステム導入	自然に囲まれたコワーキングスペースをつくる

出会い

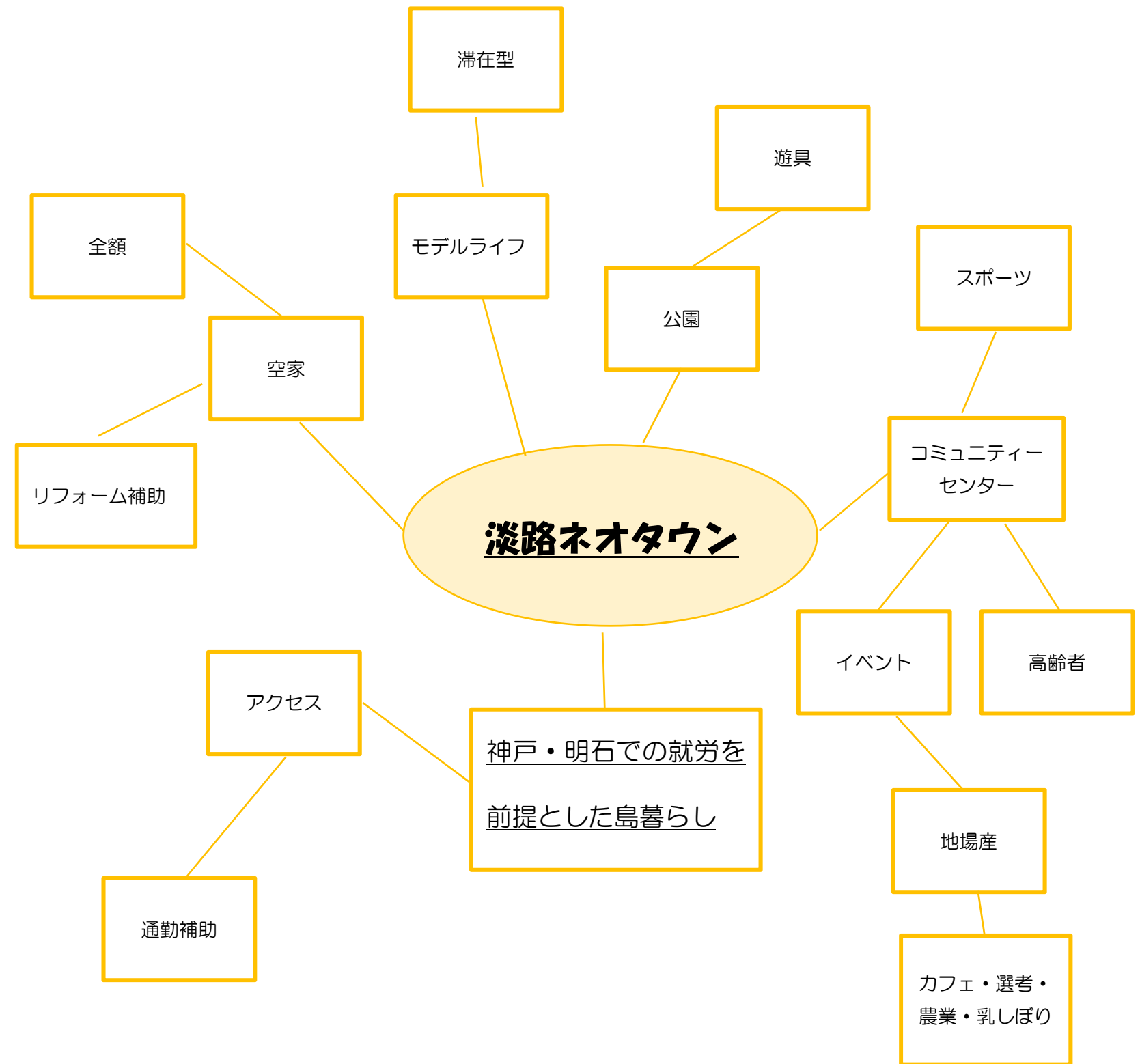
自ら地域のことを考え動いている印象	大学生が惚れる人が多い
-------------------	-------------

3班 人と人がつながる淡路ネオタウン（ひと）

アイデア

- ・自然（ゆとり）海と山が近い
- ・海がきれい
- ・水仙
- ・ツーリング
- ・日照時間多い
- ・気候安定
- ・星がきれい
- ・町がコンパクト
- ・大阪、神戸に近い
- ・信号が少ない
- ・救急医療センターがある（島特有）
- ・石垣
- ・八十八か所廻りやすい
- ・ナゾバラ
- ・戦争跡史
- ・温泉がある（ニューあわじ）
- ・丹下先生
- ・堀井雄二（ドラクエ）
- ・カネボウ跡地
- ・たぬき
- ・無人集落
- ・観光スポット少ない（来る）目的がない
- ・高齢化『人口減』
- ・昨年 600 人 ← 人口（18 歳）1000 → 100 人しか残らない
- 800 人進学 100 人島外就職
- ・子育てへのしからの補助
- ・(子育て) 金銭面も南淡路(上) 家 200 万助成
- ・(子育て) 公園少ない
- ・住 マンション 都会の方が安い → 土地も高い 交通費(高) → 島民割など

- ・休まない
- ・金持ち
- ・地域（人）とのつながり
- ・安全◎・安心◎
- ・ヤンキーが居ない
- ・子供が純粹
- ・都会（洲本）
- ・排他性が少ない
- ・アクティブ人口が多い（生産年齢が幅広い）
- ・ごはん◎
- ・食材◎牛乳
- ・若手が働きたい環境が十分か。
- ・企業
- ・総合大学がない（数）
- ・高卒 → 島外へ（そのまま）
- ・就職先が少数



4班 島での働きかたを“チカク”する（しごと）

アイデア

その他

- ・パッケージ化されない観光外国人へ
- ・持続可能なイベントの作成
- ・町歩きの促進化
(ホテル等で完結させない)
- ・ソフトな体験を増やすメディア
- ・農民者運転体験（レース）
- ・観光に特化する。それに付随した仕事が増える
- ・冬の仕事どうするか

問題

- ・空き家を何とかする
- ・空き家×あえて家を持たない人（仮住まい）
- ・かせぐ力
- ・お金が欲しい

情報（事例）

- ・都会からのアクセスが良い
→昔里山便利
- ・不足している（観光・福祉）
- ・観光（インバウンド）
- ・きっかけがないと帰ってこない

働き方

- ・短期的なりもートワーク
- ・場所にしばられない仕事
- ・ダブルワーク
- ・リモートワーク
- ・ワーケーション
- ・起業
(スモールビジネスを沢山つくる)

発信系

- ・若者が見ているメディアに情報が載っていない
- ・やりがい欲しい
- ・ローカルカッコイイ!
- ・たべるための仕事（ライフワーク）
→やりがい
- ・外国人観光客を呼びたい
(市場規模拡大)
- ・淡路島で働くことを“カッコイイ”と思わせたい
- ・Uターンを受け入れる企業を一覧化
- ・島内からしたら普通のことでも島外からしたら普通じゃない（good）こと
- ・Uターンの好事例の発信
- ・Uターンがカッコイイと感じられる情報発信
- ・働きたくない仕事は。
- ・メディアの作成
- ・学生に対して島内企業求人情報をどう発信するか
- ・やりがいがある仕事発信
- ・まずは知ってもらう関係人口の増加
- ・作られた情報じゃなくてリアルな情報が必要
- ・そもそも観光都市にするべきか

ローカルな生き方

なんとなく島外で就職する人に対して淡路島の魅力、面白さをPRし、戻ってきてもらう

Youtubeで発信。卒業性に紙でも郵送する

Uターン100人に発信してもらう

カッコイイ、カワイイ、Uターン者に情報を発信してもらう

アワジを“チカク（知覚）”する

学生（若者）Youtuberになって淡路島でカッコイイ人にインタビュー

意識高い低いに関わらずYouTubeは見る

カッコイイ仕事、カッコイイ先駆者がいることで、淡路島と就職、起業の候補地に

ローカルの淡路島を作ることによって、パッケージ化されない新しい観光形態

Webメディアの強化
非日常（体験特化）

個人ブログ
行政のFB

発信する側に旨み
(webメディア)

若者がみているメディアに、若者が情報発信するハローワークに乗っていない仕事情報（やりがい）